

めぐみイエス・キリスト教会

2023年8月27日(日) 第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第671号」



2023年標題聖句

第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌259「聖いふみは教える」	p. 404
【交読文】	No.33 詩篇第104篇	p. 906
【賛美Ⅱ】	新聖歌339「恵みの高き嶺」	p. 538
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「主の十字架」	
【聖書朗読】	ルカの福音書1章39節～45節(新約p. 108上段)	
【礼拝説教】	《マリアの訪問》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

※本日の聖書箇所(ルカの福音書1章39節～45節)

1:39 それから、マリアは立って、山地にあるユダの町に急いで行った。

1:40 そしてザカリヤの家に行って、エリサベツにあいさつした。

1:41 エリサベツがマリアのあいさつを聞いたとき、子が胎内で躍り、エリサベツは聖霊に満たされた。

1:42 そして大声で叫んだ。「あなたは女の中で最も祝福された方。あなたの胎の実も祝福されています。

1:43 私の主の母が私のところに来られるとは、どうしたことでしょう。

1:44 あなたのあいさつの声が私の耳に入った、ちょうどそのとき、私の胎内で子どもが喜んで躍りました。

1:45 主によって語られたことは必ず実現すると信じた人は、幸いです。」

●ポイント1.「ユダの町」とは？

◎エン・カレム エン・カレムはイスラエルのエルサレム地区にある村で、エルサレムの西郊外にある。エンはヘブライ語で「泉」、カレムは「ブドウ」の意味で、「葡萄園の泉」という意味である。ここには、洗礼者ヨハネ誕生教会と、マリアがエリサベツを尋ねた訪問教会がある。

●ポイント2.「子が胎内で踊りエリサベツは聖霊に満たされた」とは？

※ルカの福音書1章14節～16節「ザカリヤへの言葉」 (新約p.106)

1:14 その子はあなたにとって、あふれるばかりの喜びとなり、多くの人もその誕生を喜びます。

1:15 その子は主の御前に大いなる者となるからです。彼はぶどう酒や強い酒を決して飲まず、まだ母の胎にいるときから聖霊に満たされ、

1:16 イスラエルの子らの多くを、彼らの神である主に立ち返らせます。

●ポイント3.「主によって語られた事は必ず実現すると信じた人」とは？

※マルコの福音書10章51節～52節「バルテマイのいやし」 (新約p.90)

10:51 イエスは彼に言われた。「私に何をしてほしいのですか。」すると、その目の見えない人は言った。「先生、目が見えるようにして下さい。」

10:52 そこでイエスは言われた。「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救いました。」すると、すぐに彼は見えるようになり、道を進むイエスについて行った。

※ヘブル人への手紙11章1節・2節・6節「信仰によって」 (新約p.451)

11:1 さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

11:2 昔の人たちは、この信仰によって称賛されました。

11:6 信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いて下さる方であることを、信じなければならないのです。

◎先週の礼拝メッセージ【マリアの受胎告知】

《さて、ザカリヤの妻エリサベツが懐妊してから六か月目のことです。御使いガブリエルが、神から遣わされて、ガリラヤのナザレという町の一人の処女、マリアの所にやって来ました。

「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられます。恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。」

これは、マリアが旧約聖書に預言されていたメシアの母になることが告げられています。『それゆえ、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。(イザヤ7:14)』と。

また「イエス」と言う名前は、ヘブル語のイエホーシューア(主は救い)をギリシヤ語化したもので、ユダヤではごく一般的な名前でした。「どうしてそのようなことが。私は男の人を知らないのに。」

「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたを覆います。それゆえ、生まれる子は神の子と呼ばれます。あなたの親類のエリサベツもあの年になって男の子を宿しています。不妊と言われていたのに今はもう六か月です。神にとって不可能なことは何もありません。」

「ご覧下さい。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのお言葉どおり、この身になりますように。」

この告白こそが、カトリック教会が主の母マリアを崇敬する理由です。マリアは、神様が言われたことは必ず成就することに、全き信頼を抱いていたのです。なぜなら、「神にとって不可能なことは何もありません」と言われた言葉を、マリアは心から信じたからです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、9月3日(日)で、通常通り、午前10時からです。